中文母語話者使用日文數量詞「一」的相關研究
―以中日文數量表現的異同處為焦點―

陳嬿如

靜宜大學日本語文學系助理教授

摘要

本研究注目於中文與日文在數量詞「一」的使用上之差異，以探討中文母語話者之日文學習者使用日文數量詞「一」的特徵為目的。藉由分析『多語言母語日文學習者橫斷語料庫(I-JAS)』裡中文母語話者與日文母語話者的日文語料，獲得以下結論。(1)學習者的使用型態上，數量詞前置型(例：一人の学生が)的使用多於名詞前置型(例：学生が一人、学生の一人が、学生一人が)。使用傾向與中文數量詞的基本形態相符。 (2)學習者的誤用可分為「量詞的誤用」、「形式間的混淆」與「過剩使用」等。其中量詞「つ」的誤用和導入舊情報時「一」的過剩使用，可能起因於中日文在數量詞使用的差異。上級學習者較中級學習者正確使用率高，但學習者的日文程度不同，誤用的傾向也不同。(3)日文母語話者的使用多為名詞前置型。而學習者無論日文程度，皆為數量詞前置型的使用居多。與母語話者相較，學習者的數量詞「一」的使用率不算高，但是當中「1Q の NC 型」的比例居高。

關鍵詞：以中文為母語之日文學習者、數量詞「一」、學習者語料庫、中日對照、母語的影響

台灣日語教育學報第32期 禁止複製

受理日期:2019 年 3 月 10 日

通過日期:2019 年 5 月 3 日

How Do Japanese Learners of Chinese Native Speakers Use Quantifier "One": Focusing on the Different Use of Quantitative Expression between Japanese and Chinese

Chen, Yen-Ju

Assistant professor, Providence University, Taiwan

Abstract

This study focuses on how Japanese learners of Chinese native speakers used "one" in Japanese. By analyzing a learner database called I-JAS, the conclusions are as follows. First, learners use "quantifier+noun(QN)" type more than "noun+quantifier(NQ)" type, which is the same with the basic form of Chinese. Second, "the misuse of quantity words", "the confusion of the basic form", "the excessive use" were observed. It is thought that the misuse of "tsu" and excessive use when introducing an old information are caused by Chinese. As Japanese level of learner rises, the error rate falls, but the type of errors are different. Third, Japanese native speakers used more NQ type. When learners, regardless of their level, used QN type more. The percentage of using "one" is higher in Japanese corpus. However, learners' percentage of using "1Q の NC" is higher than Japanese native speakers'.

Keywords: Japanese learners of Chinese native speakers, quantifier "one", learner corpus, contrastive studies of Chinese and Japanese, language transfer

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

中国語母語話者による「一」を含む日本語数量詞の産出に関する研究―数量表現における日中両言語の異同を焦点に―

陳嬿如

静宜大学日本語文学系助理教授

要旨

本研究は日本語と中国語の数量表現の異同に着目し、中国語母語話者による日本語の数量詞「一」の使用実態を究明することが目的である。『多言語母語の日本語学習者の横断コーパス』での発話資料を分析したところ、以下のことが明らかになった。(1) 学習者の使用形式について、数量詞前置型（例：一人の学生が）が名詞前置型（例：学生が一人、学生の一人が、学生一人が）より多く使用され、中国語の数量詞の基本形式と一致している。(2) 学習者の使用に「量詞の誤選択」、「形式の混同」、「過剰使用」など不自然な使用が観察された。量詞「つ」の誤選択と旧情報導入時の「一」の過剰使用は、日中両言語のずれに起因すると考えられる。また、学習者の日本語能力が上がるにつれて、誤用率が下がるが、不自然な使用の傾向も異なっている。(3) 日本語母語話者は名詞前置型が多く使用されたのに対し、学習者はレベルを問わず数量詞前置型が多かった。学習者の「一」の使用率が必ずしも高いとは言えないが、「1Q の NC 型」の割合は高いことがわかった。

キーワード：中国語を母語とする日本語学習者、数量詞「一」、学習者コーパス、日中対照、母語の影響

台灣日語教育學報第32期 禁止複製

中国語母語話者による「一」を含む日本語数量詞の産出に関する研究―数量表現における日中両言語の異同を焦点に―

陳嬿如

静宜大学日本語文学系助理教授

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

1. はじめに

日本語は中国語とともに、冠詞を持たない言語だと言われており、文脈により裸の名詞で定、不定、単数、複数という意味を表すことができる。この点においては、冠詞を持つ英語と異なっている。

しかし、英語の不定冠詞「a」に相当する表現について、日中両言語に違いが見られる。たとえば、日本語では数量に焦点を当てていなければ「一」の使用が任意であるのに対し、中国語の「一」は義務的な場合があるため、英語の不定冠詞に近いと考えられている。

（1）a. 机の上に（一冊の）本がある。

b. 桌上有一本書。

c. There is a book on the table.（作例）

張（2001）では、中国語の「一」と英語の「a」との類似点を述べ、中国語母語話者が必要以上に日本語の「一」を使用する可能性があると指摘したが、実際の言語資料により検証する余地がある。なぜなら、中国語の「一」は日本語より多用されるが、すべてが必要不可欠な要素とは限らないからだ。

（2）a. ??彼は一人の少年ではない。

b. ??他不是一個少年。（中川・李 1992）[1]

一方、同じ場面において、日本語では「一」が使用されないにもかかわらず、中国語では、「一」の使用が許される場合もある。

[1] 以下、文法の誤用を「*」、不自然な表現を「??」、表現したい意図とニュアンスが異なる表現を「＃」で表記する。引用した例文の判定は、それぞれの文献に従う。

（3）a. ??彼は一人のよい学生です。

b. 他是一個好學生。（林 2010）

英語と比べると、冠詞の有無という観点から、日本語と中国語は数量表現における共通点が多いと考えられるが、単数のマーカーにおいては違いが見られた。

このような言語間の違いは、学習者の日本語の産出にどう反映されているのだろうか。本研究は日本語と中国語の数量詞「一」の共通点と相違点をまとめた上で、中国語を母語とする日本語学習者の数量詞「一」の使用実態を分析し、母語中国語とどんなかかわりがあるかを検討したい。

なお、本研究は、「数詞（一、二、三…）＋量詞（つ、人、本…）[2]」の形式を数量詞と呼び、数量詞を含む表現を数量表現と呼ぶことにする。

2.日中両言語の「一」の共通点と相違点

2 節から、日本語の「一」を含む数量詞の形式を確認した上で、日中両言語の対応関係、および意味・機能の違いについて検討する。さらに、中国語の「一」は許容されるが、日本語では不自然な場合を中心に、先行研究を考察し、課題を整理する。

以下、岩田（2013）を参考に、日本語の数量詞を Q、名詞を N、助詞を C で統一して略称する。日本語と区別するために、陳（2007）に倣い、中国語をアルファベットの小文字で表し、数量詞を q、名詞を n、動詞を v と表記する。

2.1 日本語の数量詞「一」の形式と意味

日本語の数量詞については、「一」が「二以上」の数量詞と異なることが先行研究によって指摘されている（Downing 1986、建石 2013、岩田 2013）。

[2] 日中両言語は特定の対象の数について述べる時、数詞だけではなく、量詞も必要である。但し、中国語には「一」が脱落し、量詞のみ現れる場合があるが、本研究は数詞「一」が脱落した形式も研究対象として考えている。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

岩田（2013）は数量詞を名詞とのかかわりにより、定番4型式に分類し、それぞれの特徴を論じた。数詞が「一」の場合は次のようになる。

（4）a.「1Qの NC 型」　一人の学生が
　　b.「NC1Q 型」　学生が一人
　　c.「N の 1QC 型」　学生の一人が
　　d.「N1QC 型」　学生一人が

まず、「数量詞＋の＋名詞＋助詞」の「1Q の NC 型」には不定[3]（5a）、全体性（5b）と、共有の意味（5c）を表す用法がある。（5b）の「一」は「全体として」と共起できることや、（5c）の「一」は「同じ」と置き換えられるため、単に不定を表す用法（5a）と区別されている。

（5）a. 若い刑事は一枚のぶあつい封筒をぼくに手渡し…
　　【不定】
　　b.｛一つ／全体として一つ｝の事務所を任されている。
　　【全体性】
　　c.｛一つの／同じ｝釜にて茹であげております。
　　【共有の意味】（岩田 2013、一部変更）

「名詞＋助詞＋数量詞」の「NCQ 型」構文は、数量に焦点を当てる最も無標の数量伝達形式であり、名詞全体の一部分を指す意味もある。たとえば、「階段を 12 段登った」は、階段が 12 段以上あるというニュアンスが含まれる。それに対し、「12 段の階段を登った」は、階段が全体として 12 段であるという意味の違いがある。しかし、「NC1Q 型」の場合は、名詞の部分数の意味がなくなると言われている。

（6）｛事務所を一つ／一つの事務所を｝任されている。
　　（岩田 2013）

「名詞＋の＋数量詞＋助詞」の「N の 1QC 型」は、「名詞の中の数

[3] 岩田（2013）では、定指示を「ある指示対象である個体を「聞き手」がすでに「知っている」（と話し手が思っている）場合であり、不定指示はそうでない場合である」と定義している。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

量」を表し、「名詞＋数量詞＋助詞」の「N1QC 型」は「名詞を表すものただそれだけ」というニュアンスを与えている。

（7）刑事「ああ、そうだよ。マーカムも容疑者の一人にあがっている。」（岩田 2013）

（8）村は医者一人になった。（他の人間はいなくなった）（岩田 2013）

数量詞と名詞からなる定番 4 形式以外に、単独で現れる数量詞もある。

岩田（2013）では、さらに数量詞が助詞「で」と共起する「デ格型」と名詞述語文の述語位置に現れる「述部型」といった分類もある。

（4’）a．学生が一人で住んでいる。【デ格型】

b．学生は一人だ。【述部型】（岩田 2013）

また、「一」は不定標識であるため、二以上の数量詞と違って、代名詞のように既出の情報を指す用法がないと言われているが、（10）のような特定の対象の内訳を表すことができる。

（9）私のクラスには劉さんという留学生がいます。{彼／劉さん／*一人}はとても明るくて…【代名詞】（岩田 2013）

（10）ソ連から二人の軍事顧問が訪れた。…一人はトムスキーという。（中略）もう一人はたたき上げの軍人で、爆弾の専門家アレクセイエフ。【内訳】（岩田 2013、一部変更）

以上、日本語の数量詞の形式について概観した。数量詞と名詞の組み合わせからなる定番 4 形式のほか、数量詞単独での用法もあり、形式によって、異なる意味を表すことがわかった。

2.2 形式と意味から見た日中両言語の異同

一方、中国語の数量表現は「数量詞＋名詞」が基本の形式である。建石（2013）は、中国語は日本語の「N の QC 型」のような部分数を表す用法がないことや、「NCQ 型」を中国語に訳しても「数量詞＋名詞」という語順が変わらないことを指摘している。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

それについて、奥津（1986）は、中国語の数量詞にも「NCQ 型」に類似した形式があると指摘した。

（11）a．太郎買了三本書。（太郎は三冊の本を買った）

b．書太郎買了三本。（本は太郎は三冊買った）

c．太郎書買了三本。（太郎は本は三冊買った）

（奥津 1986、一部変更）

（11b）と（11c）はいずれも「書(本)＋三本（三冊)」の語順である。しかし、(11a）の「三本書（三冊の本)」は不定名詞句であるのに対し、(11b）と（11c）は「書（本)」に焦点が当てられたため、「書（本)」は主題化された定名詞句になる。それは、日本語の「NCQ 型」のような数量に焦点を当てる用法と異なり、名詞の移動による主題化現象だと主張されている。

陳（2007）でも、中国語では「動詞＋数量詞＋名詞（以下、vqn)」が基本形式で、その他の文型は落ち着きが悪いと述べた。それらは他の文と連続させて、事物の対比（12a）や計算（12b）などを表すという結論が得られた。特に、数量詞が動詞を修飾する場合（12c）は、特別に指すものというイメージがあるとされている。

（12）a．［nvq］　書買了三本，筆買了両支。

（本を三冊買い、ペンを二本買った。）【対比】

b．［vnq］　買了書三本，筆両隻。

（本を三冊、ペンを二本買った。）【計算】

c．［nqv］　書三本買了，其他都忘了。

（本三冊を買ったが、他は忘れた。）（陳 2007）

以上をまとめると、日本語の「NC1Q 型」は数量に焦点を当てる用法である。それに対し、中国語の「名詞＋数量詞」の用法は名詞の主題化により、対比、計算、強調などのニュアンスを加えているという違いがある。

2.3 形式・意味についての考察

建石（2013）の指摘通り、前述の「NC1Q 型」の例を中国語に訳し

台灣日語教育學報第3期 禁止複製

ても、「数量詞＋名詞」の語順のままである（6’a）。しかし、陳（2007）を参考に、（6’b）のように変更すれば、「名詞＋数量詞」でも許されるようになる。

（6’）　a．我被託付了一間事務所。

b．我被託付了事務所一間，房子兩棟。

（事務所を一軒、お家を二軒任されている）

（（6）を参考に作成）

「N の 1QC 型」については、確かに、（7）を中国語に訳すと、名詞の範疇を定める語（□で表された部分）を補う必要があるが、「N 之一（N の 1）」という表現もあるため、必ずしも「N の 1QC 型」に相当する形式がないというわけでもない。しかし、（7’d）が名詞述語文以外では、許容度が下がる。使用する名詞の制限もあるため、決まり用法として考えられる。

（7’）a．刑事：??是的，馬克也是嫌犯的一個。

（容疑者の一人）

b．刑事：是的，馬克也是嫌犯中的一個。

（容疑者の中の一人）

c．刑事：是的，馬克也是其中一個嫌犯。

（その中の一人の容疑者）

d．刑事：是的，馬克也是嫌犯之一。（容疑者の一）

（（7’）は筆者が（7）を中国語に訳したもの）

さらに、中国語にも「N1QC 型」に類似する「vnq 型」がある。それは、数量を計算する時に使われる用法であり、日本語の「N1QC 型」と同様、「ただそれだけ」のニュアンスが生じるが、単文においては、すべての場合に適用できるとは限らない。

（8’）村裡只剩｛醫生一個／＃一個醫生｝，其他人都離開了。

（村は医者一人になった。他の人間はいなくなった）

（（8）を参考に作成した）

言い換えると、日本語の「名詞＋数量詞」の語順に当てはまる中

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

国語の表現がないわけではないが、計算や対比など、話し手の意図と異なる意味が生じる。

また、新規導入の場面においては、(13) と (14) はいずれも文法的に正しい表現であるが、日本語は (13b) が最も自然であるのに対し、中国語は (14a) が自然だと述べられている (奥津 1986)。

(13) a. 昔、ある所に三匹の子豚が住んでいました。

b. 昔、ある所に子豚が三匹住んでいました。

(14) a. 從前有個地方有三隻小豬。

b. 從前有個地方有小豬三隻。

(奥津 1986、中国語一部変更)

つまり、日本語の「NC1Q 型」構文は、形式上、中国語の名詞前置の「nvq 型」に対応しているが、意味の面では、数量詞前置の「vqn 型」に近いと思われる。

以上、日本語の数量表現の 4 形式を中国語と照らし合わせると、次のようになる。議論を単純化するために、数量詞が名詞の前に置かれる「数量詞＋名詞」のタイプと名詞が数量詞の前に来る「名詞＋数量詞」のタイプがあり、それぞれを便宜上、「数量詞前置型」と「名詞前置型」と呼ぶことにする。

表 1：日本語の定番 4 形式と中国語との対応関係

	日本語		中国語	
数量詞前置	1Q の NC	一冊の本を買った。	vqn	買了一本書。
名詞前置型	N1QC	本一冊を買った。	vnq	＃買了書一本, 筆兩支。【計算】
	N の 1QC	本の一冊を買った。	n 的 1q	??買了書的一本。
			n 之 1	??買了書之一。
	NC1Q	本を一冊買った。	nvq	＃書買了一本, 筆買了兩支。【対比】

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

2.4 機能から見た日中両言語の異同

そもそも「一」は何のために使用されているのか、また、どんな時に日中両言語の「一」の機能がずれているのだろうか。

建石（2013）は中国語の「一」は日本語の「一」より使用範囲が広いと指摘している。つまり、中国語は日本語より多くの場面で、「一」が使用されているようだ。

中国語の「一」は名詞に個別の概念を与え、抽象的なものを具体化する機能がある（大河内 1997、中川・李 1992）。それは、数量詞の個体化機能とも呼ばれている。例えば、(15a) は警察官が誰でもよいが、(15b) は、話し手にとって特定の警察官という違いがある。

（15）a．這兒有警察嗎？（ここに警察がいますか。）

b．這兒有個警察嗎？（ここに一人の警察がいますか。）

（大河内 1997、訳文は筆者による）

林（2010）は、個体化機能、存在を表す機能、聞き手の注意を喚起する機能といった観点から、日中両言語の「一」の異同に関して論じた。

まず、個体化機能については、日中両言語は共に、初めて登場する事物を導入する際に「一」が使われる。

（16）a．京都の下鴨に一軒の寿司屋がある。

b．在京都的下鴨有一家壽司店。（林 2010）

また、林（2010）は個体化機能に関連して、日中両言語の数量詞が共に事物の存在と関わっていると述べている。そのため、事物が存在しない否定文の場合、あるいは存在が確認できない疑問文の場合に、数量詞を付加すると不自然な表現となると指摘している。

（17）a．??ここには一つのフランス語学校はない。

b．??這兒沒有一家法語學校。（林 2010）

（18）a．??このあたりに一つのフランス語を学ぶ学校はありますか。

b．??你們這兒有一家學法語的學校嗎？（林 2010）

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

しかし、日本語の存在の意味を持っていない名詞述語文（19a）では「一」は用いられないが、中国語では、その使用が自然であるため、両言語はこの点で必ずしも同じとは限らない。

（19）a．??これは一本のペンです。今日はこれを使って、マジックをしましょう。

b．這是一支筆。今天就用這支筆來表演魔術。

（林 2010：40、一部変更）

さらに、「一」が不定を表すため、日本語の場合、二度目以降に現れた旧情報には「一」が付けられないのに対し、中国語では、新情報でなくても、話し手にとって聞き手の注意を引き起こす要素があれば、「一」が用いられる。

（20）a．九発はポケットの中から①一枚の紙を取り出して、投票するかのように周全栄の手に投げた。周全栄が紙を広げて見てみると、それはただの②白紙だった。彼の顔の表情は一変し、③その白紙を地面に捨てた。

b．九發從口袋裡掏出①一張紙，投票樣投到周全榮手裡，周全榮展開紙條一看，原來只是②一張白紙，臉上刷地變了表情，把③白紙甩在了地上。（林 2010、一部変更）

（20b）では「一張紙（一枚の紙）」で既に導入したものを、二度目表す時に、白い紙を強調し、「一張白紙（一枚の白い紙）」で言うことができる。このような旧情報をもう一度新情報のように導入する中国語の用法は、「一」の注意喚起機能と呼ばれている。

2.5 機能についての考察

林（2010）は、存在の確認できない疑問文において、日中両言語は共に「一」が使用されないと指摘した。しかし、大河内（1997）の指摘を踏まえて考えると、話し手が特定のものについて尋ねる場合、中国語では、疑問文においても「一」の許容度が上がる。

例（18）が特定の学校を尋ねる場合、「你們這兒有家學法語的學校嗎？（訳文：ここに一つのフランス語学校はないか。）」が言えるよう

台灣日語教育學報第32期 禁止複製

になると思われる。

さらに、否定文においても、「一」が直接名詞を修飾しなければ、中国語では許容度が高くなる。

（17’）a．??ここには一つのいいフランス語学校はない。

b．這兒沒有一家好的法語學校。（（17）を参考に作成）

「フランス語学校」の前に「一つ」のほかに「いい」という修飾語があれば、中国語では「ここにフランス語学校があるが、いいフランス語学校はない」という意味で読み取れるため、ものの存在を否定する文脈ではなくなる。しかし、日本語では、依然として不自然な表現である。

つまり、日本語と中国語の「一」を含む数量詞は「不定[4]」の指示対象を指す点では共通しているが、中国語の場合、存在を表す機能については、話し手にとって「特定」の指示対象であれば、否定文や疑問文においても、「一」が使用できる。さらに、先行研究で述べられた旧情報を新情報のように再導入する機能を持つ点において、中国語は日本語と異なることがわかった。

表 2：機能から見る日中両言語の「一」のずれ

		中国語の「一」	日本語の「一」
個体化機能		○	○
存在機能	名詞述語文	○	×
	存在疑問文	特定の対象について尋ねる場合○	×
	存在否定文	直接的に名詞を修飾しない場合○	×
注意喚起の機能		○	×

[4] 本稿は、岩田（2013）を参考に、「定」を聞き手が知っている（と話し手が想定する）指示対象と、「特定」を話し手が知っている指示対象と定義する。

台灣日語教育學報第32期 禁止複製

2.6 本研究の課題と結果の予想

以上のように、日中両言語における数量詞の使用形式、意味、機能の異同を考察した。このような違いは中国語を母語とする日本語学習者の「一」の使用に影響を与えるのだろうか。影響があるとすれば、どういったところで見られるのだろうか。本研究は、以下のように課題を設ける。

【本研究の課題】

中国語母語話者の「一」を含む日本語の数量詞の使用実態を分析し、母語の影響があるかを検討する。さらに日本語母語話者の使用と比較した上で、学習者独自の使用特徴を明らかにする。

日本語の「一」の付加が任意的であるのに対し、中国語では、義務的な場合があることから、中国語を母語とする学習者は、母語の使用傾向の影響を受けて、日本語母語話者より頻繁に日本語の「一」を使用しているのではないか。さらに、次のような特徴が現れると予想される。

予想 1：中国語を母語とする学習者の「一」の使用形式は、数量詞前置型が名詞前置型を上回る。特に「1Q の NC 型」の割合が高い。「NC1Q 型」と「N1QC 型」は、複文により多く見られ、計算や対比の文脈で使用されているのではないか。

予想 2：誤用と不自然な使用について、存在の意味に反する誤用や、旧情報を再び導入する際に「1Q の NC 型」の過剰使用が見られる。学習者の日本語能力によって、「一」の使用傾向および誤用のタイプが異なるのではないか。

予想 3：学習者は日本語母語話者より「一」の使用率が高く、形式別使用割合も日本語母語話者と異なるが、日本語能力が上がるにつれて、学習者の形式別使用割合は、母語話者に近づいていくのではないか。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

3.調査の詳細

日本語学習者の数量詞「一」使用実態を知るために、本研究は、国立国語研究所が作成した『多言語母語の日本語学習者の横断コーパス：I-JAS』を用いて分析する。分析対象とする資料は、中国語を母語とする日本語学習者（50名、以下CCM）の言語資料である。

比較対象として、日本語母語話者（50名、以下JJJ）の言語資料も使用する。学習者は、中国の大学で日本語を勉強した海外の教室環境学習者である。日本で1年以上滞在したことがない。日本語母語話者は20歳から55歳まで、関東在住の男女50名（男性23名、女性27名）である。

課題は、対話（以下、I)、ロールプレイ2課題（以下、RP)、ストーリーテリング口語産出と作文各2課題（以下、口頭をST、作文をSWと略称）である。

学習者の日本語能力は、J-CAT日本語テスト[5]で判定されている。「一」の使用が観察された学習者のスコアは103点から354点にわたり、そのうち、中級学習者は25名で、上級学習者は19名だった。産出データの中で「一」を含む数量詞を使用しなかった学習者が6名いた。

まず、中国語母語話者の日本語資料から数量詞「一」を含む語句を抽出し、量詞別、使用形態ごとに合計する。文脈を参考に、「一」の意味・機能を考察し、学習者の使用特徴、および不自然な使用例をまとめる。日本語母語話者の資料も学習者と同じ要領で分類を行う。

正誤判定は2名の日本語母語話者に依頼した。判定に揺れがある場合、3人目の母語話者の意見を参考に判定した。

[5] J-CATとはJapanese Computerized Adaptive Testの略で、一般社団法人日本語教育支援協会が主催したオンライン日本語テストである。スコアが100点未満の学習者は初級レベルに、100-250の間の学習者は中級レベルに、250点以上の学習者は上級レベルにグループ分けされている。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

4.中国語母語話者の日本語「一」の産出に対する調査

4.1 使用実態

岩田（2013）を参考に学習者の言語資料[6]に現れた「一」を形式と量詞別に分けると、以下の表 3 のようにまとめられる。

本研究はさらに、「1QNC 型」を「1Q の NC 型」から独立させ、別々に合計する。分析の便宜上、定番 4 形式を「数量詞前置型」と「名詞前置型」に区分した。

岩田が分類した数量詞の形式はすべて観察されているが、学習者が一番多く使用した形式は「1Q の NC 型」である。数量詞が名詞の前に来る「数量詞＋名詞」使用は、全体の 4 割近く占めている。

表 3：中国語母語話者の日本語「一」の使用実態（件）

		つ	人	匹	本	個	種	小計	割合
数量詞前置	1Q の NC	22	6	5	1		1	35	39%
	1QNC	10						10	
名詞前置	NC1Q	3	5		1			9	14%
	N1QC	2	1					3	
	N の 1QC		3				1	4	
述部型		2	3				1	6	5%
デ格型			20					20	17%
内訳		13	5					18	15%
その他[7]		2	8		1	1		12	10%
小計		54	51	5	3	1	3	117	100%
割合		46%	44%	4%	2.5%	1%	2.5%	100%	

[6] 記号、空白などを除いた検索語数について、CCM は 135,794 語,JJJ は 247,671 語である。

[7] 慣用表現、数量詞が単独で現れる場合や分類が困難である項目を「その他」と分類する。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

（21）一つ、いい公園見つけました[8]。

【1QNC 型】（CCM30-I 上級[9]）

（22）ケンとマリは一匹の犬を飼っています。

【1Q の NC 型】（CCM15-ST 上級）

それに対して、名詞が数量詞の前に置かれる使用は 16 件のみであり、「NC1Q 型」、「N1QC 型」、「N の 1QN 型」はいずれも使用されたが、全体の 14%にしか達していない。（→）の部分は筆者が行った修正である。

（23）高校の遠足の時、同行した人が一人車で亡くなってしまった。【NC1Q 型】（CCM20-I 上級）

（24）私は、この都会の??村、一つ（→村の一つ）に住みました。【N1QC 型】（CCM13-I 中級）

（25）来週クラスメートの一人が（→に）その仕事に（→を）紹介します、それいいですか?

【N の 1QC 型】（CCM25-I 上級）

数量詞前置型の使用が名詞前置型より多いことは予想と一致しているが、学習者の「名詞＋数量詞」は主に単文であり、母語の影響を受けた可能性がある対比・計算の用法は観察されなかった。

「デ格型」は 20 件あり、「1Q の NC 型」に続き、多く使用されているが、すべて「一人で」という形である。次いで、多く使用された用法は「内訳」だった。

（26）お父さんは一人で日本で仕事しています。

【デ格型】（CCM10-I 中級）

（27）公務員の試験は二つあります。一つは、国家の公務員、もう一つは、地方の公務員。【内訳】（CCM45-I 中級）

「述部型」について、質問に対する返事や他の形式と共起する使用が観察された。

---

[8] 例を見やすくするために、繰り返し、音声音、あいづち、フィラーなど意味に影響を与えない項目を記載しないことにする。

[9] CCM は言語資料の略称で、数字は学習者の番号である。CCM30-I は 30 番目の学習者のインタビュー資料のことを意味する。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

（28）日本人：小龍包は、種類は一つだけですか？

学習者：一つだけではありませんが…（後略）

【述部型】（CCM8-I 上級）

岩田（2013）が名大会話コーパスから日本人が使用した量詞の頻度を分析した結果、「人」の使用が圧倒的に多く、上位五量詞は「人（52%）」「つ（23%）」「個（10%）」「枚（6%）」「本（2%）」であり、これらが全体の 93%を占めることがわかった。

本研究が対象とする日本語学習者の量詞の使用については、「つ」と「人」の使用率が高い点が日本語母語話者の使用と共通している。しかし、「つ（46%）」の使用が「人（43%）」を上回ることや、「枚」が一度も使われず、「匹（4%）」がされていたことなどの違いがある。「匹」の使用に関して、ストーリーテリング課題に影響されていると思われる。

「つ」の多用の要因として、話題による違い以外に、学習者の母語も関わりがありそうだ。以下では、学習者の誤用・不自然な使用について説明する。

4.2 誤用・不自然な使用について

学習者による誤用、および不自然な使用について以下のようなタイプ[10]に分けられる。

（29）a. 量詞の誤選択による誤用・不自然な使用

b. 定番形式の混同による誤用・不自然な使用

c. 過剰使用による誤用・不自然な使用

4.2.1 量詞の誤選択

人や動物を数える時、または頻度を表すなどの時、学習者が適切に量詞を選ぶことができず、「つ」を誤って使用してしまうことがある。

（30）*一つ犬（→一匹の犬）は彼達のバスケットに飛び込んでいました。（CCM48-ST1 上級）

[10] 形態上の誤用（例：ひどり、ふとり）や助詞などの誤用はここでは論じないことにするが、「その他の誤用」に分類する。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

（31）*一つの男（→一人の男）は愛している。

（CCM45-I 中級）

（32）日本人：嬉しかった誕生日ってありますか。

学習者：?一つ（→一回／一度）しか。（CCM23-I 中級）

その理由は、中国語の「一個」が日本語の「一つ」より適用範疇が広いことと関連しているのではないだろうか。

中国語の「一個（一つ）」は無生物だけではなく、人間にも適用している。（32）も中国語で「你有喜歡的生日嗎？」と聞かれると、「有一個（一つあります）」という「一つ」に相当する中国語「一個」で答えられる。つまり、学習者は母語の使い方に影響されていると考えられる。

4.2.2 形式の混同

学習者の資料で、岩田（2013）が指摘した数量詞の形式がすべて使用されているにも関わらず、形式間での混同が見られた。

（33）日本人：観光地で有名な所はありますか。

学習者：??一つの場所はとても有名です。

（→有名な所は一つあります。）

【??1Q の NC 型→NC1Q 型】（CCM18-I 中級）

（34）日本人：どうしてその先生が好きだったんですか。

学習者：美人さんだと、??その理由一つ。

（→その理由の一つ。）

【??N1QC 型→N の 1QC 型】（CCM01-I 上級）

（35）学習者：今は、ＡＫＢフォーティーエイトです。

日本人：そうですか、日本の女の子。

学習者：??女の子、一人なんです。（→（AKB のメンバーの中の）一人の女の子が好きなんです。）

【??述語型→1Q の NC 型】（CCM15-I 上級）

「N1QC 型」は 3 例しかなかったが、すべて不自然である。また、今回の資料では、「NC1Q 型」の産出による不自然な使用がないもの

台灣日語教育學報第32期 禁止複製

の、(33) のように、「NC1Q 型」を使用すべきところで他の形式が使用された例が観察されている。いずれも数量詞の形式を適切に選べないことに起因すると考えられる。

4.2.3 過剰使用

本研究で述べた過剰使用とは、「一」を使用してはいけない場面において、「一」が使用されることにより誤用・不自然な使用となる場合である。

日本語は、存在の意味に反する場面では「一」が使用されない点で中国語と異なっている。そのため、本研究は、学習者の使用に母語の影響を受け、存在の意味に反する誤用が観察できると予想した。しかし、学習者コーパス (CCM) からは、存在疑問文と存在否定文での「一」の過剰使用が観察されていない。また、名詞述語文の述語位置に「1Q の NC 型」が使用された例は 1 例あるが、正用である。

(36) 姉がもう一人のお母さんなんです。(CCM15-I 上級)

ここでの「もう一人の」はものの存在ではなく、「お母さん」の属性を表す表現である。その証拠は、「もう」という情報を補う要素を取り除くと、不自然な文になる。

(36') 姉が??一人のお母さんです。(作例)

一方、注意喚起のために、旧情報に「一」をつけた不自然な表現が見られた。

(37) (ケンとマリは) 地図を見ている時①犬は (→が) 入ってしまった。ケンとマリは郊外に行ってやっと目的地についた。バスケットの蓋を開くと、②??一匹の犬 (→犬は／その犬) は外で走りました。(CCM11-ST1 上級)

(37) はストーリーテリングの課題である。導入済みの「犬」は、再び現れた時に、「その犬」や「犬」ではなく、「一匹の犬」と表現されたため、不自然な使用となった。これも日中両言語のずれによるためだと考えられる。また、文法的な間違いではないが、以下のような日本語母語話者にとって不自然な用例も過剰使用として取り

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

上げたい。

（38）夜、??一つのこの映画（→この映画／この映画を一本）を見て、全然眠りませんでした。（CCM43-I 中級）

誤用・不自然な使用のタイプと学習者の日本語能力とのかかわりについて、J-CAT 日本語テストに基づき、学習者を中級と上級に区別してまとめると、次のようになる。

表 4：学習者の日本語能力と正用／誤用の傾向について

	正用	量詞の誤選択	定番形式の混同	過剰使用	その他の誤用
中級	68%	16%	3%	4%	9%
上級	73%	4%	6%	6%	10%

中級学習者の誤用はほかのタイプより、「量詞の誤選択」の割合が高かった。それに対し、中級学習者と上級学習者の資料では、過剰使用による不自然な使用が見られたが、旧情報に「一」を付けた注意喚起の誤用は、上級学習者の産出のみで観察された。このことから、学習者の日本語能力により誤用のパターンも変わると言えるだろう。

上級学習者は中級学習者より正用率が高く、日本語能力が上がるにつれて、誤用も減少すると考えられる。しかし、上級学習者の産出においても、依然として「一」の不自然な使用が残っていることは、数量詞使用の困難さを説明している。

5.日本語母語話者の使用との異同

学習者の数量詞の使用特徴を明らかにするために、同じ課題を行った日本語母語話者の言語資料も分析した。網掛けの部分は、各グループの使用率の上位 3 形式を表している。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

表 5：日本語母語話者と学習者による「一」の使用割合

	数量詞前置型		名詞前置型			デ格	内訳	述部	他
	1Q の NC	1QNC	NC 1Q	N1QC	N の 1QC				
中級	31%		9%			24%	22%	4%	10%
上級	49%		21%			8%	6%	6%	10%
JJJ	19%		20%			10%	18%	17%	16%

表 5 から上位三位の使用形式について、中級学習者と上級学習者の割合が異なっていることがわかった。

（39）中級：数量詞前置型＞デ格＞内訳

上級：数量詞前置型＞名詞前置型＞デ格

日本人：名詞前置型＞数量詞前置型＞内訳

中級学習者と上級学習者は共に数量詞前置の「数量詞＋名詞」の使用が最も多く、それぞれ全体の 31%と 49%を占めているが、名詞が数量詞の前に来る「N1QC 型」「NC1Q 型」「N の 1QC 型」の使用は中級学習者がわずか 9%だった。

上級学習者になると、名詞前置型の使用が増え、全体的に数量詞と名詞の定番形式の使用割合が高く、日本人母語話者の使用率に近づいている。

一方、日本語母語話者の場合、名詞前置型（名詞＋数量詞）は数量詞前置型（数量詞＋名詞）を上回り、全体の 20%と 19%を占めている。日本語母語話者は学習者と使用形式の傾向が異なると言える。

日本語母語話者の使用例が一番多かったのは「NC1Q 型」（29 件）で、「1Q の NC 型」（22 件）を上回った。中でも名詞と助詞が省略された「(NC) 1Q 型」が目立っている。

（40）日本人 A：中高は好きな先生、正直言っていいですか。

日本人 B：はい。

日本人 A：一人だけいました。【(NC) 1Q 型】(JJJ23-I)

台灣日語教育學報第32期 禁止複製

量詞別に見ると、日本語母語話者の使用率上位5位の数量詞は「人（42%）＞　つ（38%）＞　本（9%）＞　個（4%）＞　冊・匹（2%）」である。「人」の使用頻度の高さは、岩田（2013）が述べた日本人の調査結果と一致している。

さらに、学習者のレベルと使用する量詞との関わりについて、中級・上級学習者をグループ別で量詞の種類をまとめると、以下のようになる。

（41）中級：つ＞人＞種

上級：人≧つ＞匹＞種／本

日本人　：人＞つ＞本＞個＞冊／匹

中級学習者の「つ」が多く使用された例には、話題の影響のほか、量詞の誤選択による「つ」の誤用も含まれている。

上級学習者は中級学習者と比べると、量詞の種類が増加し、量詞「人」の使用が「つ」を上回る点で、日本語母語話者の使用割合に近くなっている。

量詞の誤選択の割合が減少した理由として、誤用の「つ」の代わりに、適切に量詞を使用できるようになったことが考えられる。

「一」の使用率に関しては、CCMとJJJの使用語数を10,000語に換算すると、それにあたる「一」の使用回数は、学習者が7.6語であり、日本語母語話者が8.3語である。一方、全く「一」を使用していない人数の割合については、学習者が12%（6名）で、日本語母語話者が1名のみで2%である。

以上のように、数量詞の使用率について、I-JASの中国語母語話者（CCM）と日本語母語話者（JJJ）の資料に限って言えば、中国語母語の学習者は「一」を多く使用したとは言えないため、学習者は必ずしも母語の使用傾向をそのまま目標言語に当てはめて使うというわけではない。一方、実際に産出した数量詞の形式については、日本語母語話者より、「1QのNC型」の使用頻度が高いことは、母語中国語の数量詞形式の影響を受けていると言えるだろう。

台灣日語教育學報第32期 禁止複製

6.終わりに

本研究は中国語母語話者による「一」を含む日本語数量詞の使用実態を検討した。中国語と日本語の表現との異同、および日本語母語話者の使用傾向と比較した上で、以下の結論が得られた。

(a) 学習者の使用形式について、岩田（2013）が指摘した数量詞の形式はすべて観察できたが、学習者が数量詞前置型を名詞前置型より多く使用しており、中国語の数量詞の使用傾向と一致していた。その一方で、「名詞＋数量詞」は主に単文であり、対比・計算の用法が観察できなったため、必ずしも中国語の影響による産出とは言えない。

(b) 誤用・不自然な使用について、主に「量詞の誤選択」、「形式間の混同」、「過剰使用」に分けられる。存在の意味に反する否定・疑問文での「一」の使用例は見られなかったが、量詞「つ」の誤用や旧情報導入の「1Q の NC 型」の過剰使用などが観察されたため、母語の影響が窺われる。学習者の日本語能力が上がるにつれて、誤用率が下がるが、誤用・不自然な使用の傾向はレベルによって異なることがわかった。

(c) 中国語母語話者の「一」の使用率は必ずしも高いとは言えないが、「1Q の NC 型」の使用頻度が高いという結果が得られた。日本語母語話者は「名詞＋数量詞」のほうが一番多いのに対し、学習者は「数量詞＋名詞」が多い。上級学習者は中級学習者より、「名詞＋数量詞」の使用が多いため、日本語能力の違いにより、使用する数量詞の割合の変化が観察された。

以上、日中両言語の数量詞「一」の対照の観点から、学習者の産出に見られた特徴をまとめた。日中両言語のずれによる誤用と不自然な使用と思われる例がいくつか観察できた。しかし、他の母語の学習者にも同じ傾向が見られるかは今後の課題にしたい。

また、今回のコーパスに限って言えば、複文、存在疑問文と否定文での「一」の使用が観察されなかったため、それらが正しく使用

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

できるかを、学習者コーパスを増やすことや、ほかの研究手法により検証する必要がある。

数量詞の指導に関しては、数量詞は学習初期の段階から導入された項目であるが、学習者は母語話者と使用傾向が異なっているだけではなく、上級学習者になっても誤用が残っている。特に、初級学習者の「量詞の誤選択」が多いことや、上級学習者の旧情報に「一」をつけた「過剰使用」が観察されたことなどは、母語である中国語の影響だと考えられる。そのため、学習者のレベルに合わせて、適切な指導を行うことが課題である。

さらに、誤用とは言えないものの、日本語母語話者にとって不自然な表現もあるため、日本語学習者の指導の上で、留意すべき点として取り上げたい。

参考文献

岩田一成（2013）『日本語数量詞の諸相』くろしお出版

大河内康憲（1997）「量詞の個体化機能」『中国語の諸相』pp.53-74.白帝社

奥津敬一郎（1986）「日中対照数量表現」『日本語学』第5巻8号, pp.70-78.明治書院

建石始（2013）「日中両言語における数量表現の分布と意味・機能」『中国語話者のための日本語教育研究』第4号,1-17.中国語話者のための日本語教育研究会

張麟声（2001）『日本語教育のための誤用分析―中国語話者の母語干渉20例』スリーエーネットワーク

陳力衛（2007）「数量表現における日本語の対照研究」彭飛（編）『日中対照言語研究論文集―中国語からみた日本語の特徴、日本語からみた中国語の特徴』pp.185-202.和泉書店

中川正之・李浚哲（1992）「日中両国における数量表現」大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』pp.95-116.くろしお出版

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

林佩芬（2010)「数詞「一」からなる数量表現について－日本語と中国語との比較を中心に―」『多元文化』10, pp.34-48.名古屋大学国際言語文化研究科

Downing, Pamela (1986) The anaphoric use of classifiers in Japanese. In C.G.Craig (ed) Noun classes and categorization, p.345-375 John Benjamins Publishing Company

＜付記 1＞本研究は、国立国語研究所のプロジェクトによる成果『多言語母語の日本語学習者の横断コーパス：I-JAS』（および検索システム）を利用して行われたものである。

＜付記 2＞本研究は「2018 年度輔仁大学日本語文学科創立 50 周年・台湾日本語文学会創立 30 周年記念国際シンポジウム」でのポスター発表の内容を加筆修正したものである。学会の会場で多くの方から有益なコメントをいただいた。また、本稿の修正にあたり、審査委員の方から大変貴重な助言をいただき、感謝を申し上げる。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製